

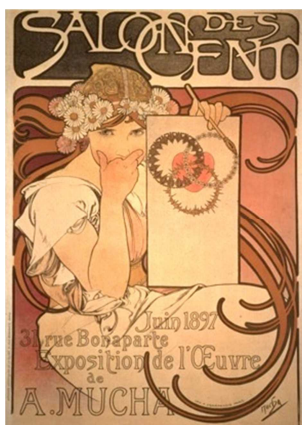
令和元年 9 月 5 日

記者発表

日本とチェコの交流 100 周年！美術の交流を紹介！

## 「ミュシャと日本、日本とオルリク」展 を開催します

日本とチェコの交流が始まって 100 年となることを記念し、19 世紀末からヨーロッパで盛んとなった日本趣味(ジャポニスム)がチェコと日本の双方に影響を与えあった様子を、チェコ出身の2人の芸術家、アルフォンス・ミュシャとエミール・オルリクの作品を中心に紹介します



「サロン・デ・サン ミュシャ作品展」ポスター  
1897 堺 アルフォンス・ミュシャ館蔵



『ラ・プリム』誌の黄道十二宮カレンダー  
1897 インテック蔵

### 【展示構成】

- 序章 ジャポニスム - 光琳、型紙、そして浮世絵
- 第1章 チェコのジャポニスム
- 第2章 ミュシャと日本
- 第3章 日本とオルリク
- 第4章 オルリク - 日本の思い出／後継者たち

1. 会期・会場 令和元年 11 月 2 日(土)～12 月 15 日(日) 和歌山県立近代美術館
2. 主催 和歌山県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
3. 後援 駐日チェコ共和国大使館、チェコセンター東京
4. 協賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜
5. 協力 ルフトハンザカーゴ AG、一般財団法人高久国際奨学財団、イデッフ
6. 特別協力 チェコ国立プラハ工芸美術館、ダッハウ絵画館
7. 催し 会期中に講演会、フロアレクチャーなどを実施予定

☆ オープニング式典 (テープカット: 外交史料展と同時開催)

日時: 令和元年 11 月 1 日(金) 13:00 から

場所: 和歌山県立近代美術館

※当日の見学は、招待者、報道機関のみとなります

担当課	県立近代美術館学芸課
担当者	井上・青木
電話	073-436-8690

## 2020 日・チェコ交流 100 周年 『ミュシャと日本、日本とオルリク』展

### 《参考情報》

#### <開催にあたって>

- 当館を中心とした独自調査による企画
- 海外の美術館(チェコ国立プラハ工芸美術館、ダッハウ絵画館)との直接交渉による展覧会

#### <展示内容と楽しみ方>

- 日本の美術がチェコ出身のミュシャとオルリクというふたりの芸術家に与えた影響を紹介
- 19 世紀末のヨーロッパでは日本趣味(ジャポニスム)が流行し、翻って日本にも影響を与えた関係を紹介
- 二人の芸術家の活動を通して日本とヨーロッパの関係を「めぐるジャポニスム」として紹介

#### <アルフォンス・ミュシャ (Alfons Mucha 1860-1939) >

- 今年没後 80 年
- ミュシャは 19 世紀末のパリでアール・ヌーヴォーを代表する画家として活躍
- ミュシャの作品が浅井忠、黒田清輝、藤島武二ら日本の画家たちにも影響を与えたことを紹介
- 2017 年に国立新美術館で開催された展覧会には、65 万 7 千人が来場するなど、大いに人気が高まっている

#### <エミール・オルリク (Emil Orlik 1870-1932) >

- 来年生誕 150 年
- オルリクはジャポニスムに触れて日本に憧れ、1900 年に来日
- 日本で浮世絵版画を学び、日本風の作品を制作
- オルリクの木版画制作はチェコにも影響を与える

#### 是非、ご覧下さい

担当課	県立近代美術館学芸課
担当者	井上・青木
電話	073-436-8690